

金融教育研究プロジェクト

- ◎松尾 直博 (東京学芸大学教育心理学講座臨床心理学分野)
○大澤 克美 (東京学芸大学人文科学講座社会科教育学分野)
根本 徹 (東京学芸大学附属小金井小学校)
牧岡 俊夫 (東京学芸大学附属小金井小学校)
古家 正暢 (東京学芸大学附属国際中等教育学校)
大竹 美登利 (東京学芸大学生活科学講座家庭科教育学分野)
藤田 智子 (東京学芸大学生活科学講座家庭科教育学分野)
石津 みどり (東京学芸大学附属国際中等教育学校)
佐藤 麻子 (東京学芸大学附属小金井中学校)
三浦 佳 (東京学芸大学附属大泉小学校)
池尻 加奈子 (東京都立清瀬特別支援学校)
永田 繁雄 (東京学芸大学教職大学院)
和井内 良樹 (東京学芸大学附属大泉小学校 (現：宇都宮大学))
幸阪 創平 (東京学芸大学附属世田谷小学校)
山名 淳 (京都大学大学院教育学研究科)
林 安紀子 (東京学芸大学教育実践研究支援センター)
伊藤 友彦 (東京学芸大学特別支援科学講座支援方法学分野)
小金井 俊夫 (東京学芸大学附属特別支援学校)

代表者連絡先：nmatsuo@u-gakugei.ac.jp

【キーワード】 子どものお金・金融に関する意識調査 お金・金融に対する意識の発達と特徴
小学校・中学校の学習指導要領 金融教育カリキュラム試案

1 はじめに

金融教育に関するこの度の研究は、本学とみずほフィナンシャルグループが2006年4月に立ち上げた共同研究の発展として行うものである。これまで8年間に渡る共同研究では、子どもの発達や生活経験を重視した金融教育の在り方を実践的に追究し、その成果を公開講座や研修会で社会に発信すると共に、成果を生かした各種のテキストや教材等を学校現場に提供してきた。開発・作成されたテキストには、現在も増刷を重ねているものや財団法人の消費者教員支援センターから優秀賞をもらったものなどがあり、金融教育の発展と学校現場への普及に寄与してきた。

上記の共同研究では、これまで経験的・事例的に把握してきた子どものお金や金融に関する意識を、調査を通してより客観的・実証的・縦断的に把握するため大規模なアンケートを2013年度に実施した。年度末までに、単純集計及びクロス集計の一部がグラフ化され、一次的な分析・考察が行われている(詳しくは昨年度末提出した報告書に記載)。

2014年度は、これまでの調査研究に基づき、金融教育カリキュラムの試案作成に向けて子どものお

金・金融に対する意識とその変容について検討すると共に、それを踏まえつつ社会科・家庭科・道徳の学習指導要領を検討し、総合的・教科横断的な立場から金融教育のよりよいあり方と更なる可能性について検討を進めていきたいと考える。

2 本プロジェクトの目的

お金や金融に関する子どもの意識とその発達の様相を仮説的に明らかにすると共に、それを踏まえて小学校及び中学校の学習指導要領で金融教育との関連が想定される教科・領域の内容と配当を再検討することから、金融教育の更なる充実を意図した小・中のカリキュラム試案の作成とその授業で求められる特別支援的な視点・指導のありようを明らかにする。

3 本プロジェクトの実施

1. 各教科・領域の視点及びメンバー個々の関心からアンケート結果を再度読み直し、適時クロス集計等を行いながら更なる分析・考察を進める。

< 5月～7月 >

2. 調査結果の分析からお金・金融の意識と発達を考察すると共に、小・中学校の学習指導要領を関連的に考察し、整合性や金融教育の課題などについて検討する。

< 8月～10月 >

3. 上記の検討を踏まえつつ、既存の各教科・領域のカリキュラムに金融教育の内容や授業をどのように位置づけていくべきかを、これまでの著作物など研究成果に基づいて総合的に検討する。

< 11月～1月 >

4. これまでの検討結果を金融教育カリキュラム試案としてまとめるため、その整理の仕方と試案の表現形式について検討する。

< 1月～2月 >

5. 本年度の研究内容及び成果について研究報告書にまとめる。

< 3月 >

本年度前半は、前年度の A（量的）調査・B（質的）調査の基礎的な調査分析を踏まえ、調査結果を多角的かつ発展的に考察することから、そこに認められた生活年齢の違いによるお金や金融に関する意識の特徴から、イノセント（小1～3）・ロマンティスト（小4～6）・リアリスト（中1～3）という意識変化の様相、すなわち子どもの一般的な発達の姿を導出した。

「イノセント」は、お金に関する経験はまだ少ないが、純粹無垢な好奇心の強い次期であり、「ロマンティスト」は、お金に関する認識は高まるが、欲を抑え、清らかにお金を捉えようとする時期、「リアリスト」は、買い物行動や自立的な金銭管理も活発になり、将来に向けて現実的な考え方が増加する時期であると特徴づけられる。

こうした発達の様相を踏まえ、年度後半から社会科・家庭科・道徳を中心に現行学習指導要領の内容を改めて読み直し、金融教育の課題と可能性について検討を行ってきた。これは、現在一般的に社会科・家庭科・道徳の授業で取り上げられている金融教育に関連した内容を、調査結果に基づいて批判的に考察する作業であると同時に、本共同研究プロジェクトで作成したテキストの内容をも再検討する作業でもある。

この作業の成果を、子どもの発達と教科・領域によるマトリクスにまとめたものが、金融教育カリキュラム試案である。(具体的なカリキュラム試案については、報告書の該当ページをご覧ください)

金融教育のカリキュラム試案では、2教科と道徳の試案に加えてキャリア教育がもつ金融教育的な側面からも、社会科・家庭科・道徳に示された内容を再検討し、断片的になりがちなこの教育の改善を意図している。また、この試案では、本共同研究プロジェクトが重視してきた特別支援教育の観点から、一人でも多くの子どもたちが金融教育に参加できることをめざして、授業の計画・実施・評価において重要な配慮事項を検討し、支援ニーズの把握と支援の手立てについて記載した。

*調査について： 2013年度に選択式の調査票により量的側面から子どもの実態に迫る A 調査(小2：1100名・小5：1244名・中2：1230名)と、自由記述を重視して主に質的側面から子どもの実態に迫る B 調査(小5：247名・中2：168名)の二つを実施した。

4 課題

本研究の成果である子どものお金・金融に関する意識の変容及び発達と、それに基づく金融教育カリキュラム試案の詳細については、判型による制約もあるため別紙の報告書を参照していただきたい。

現状の金融教育カリキュラム試案は、あくまで授業による検証を含めた今後の研究・実践を進める上での参考資料に過ぎない。教育課程に広く網掛けをすることになる金融教育の全体像をこの試案によって理解し、教科・領域や校種の枠を超えて目標・内容のつながりや発展を考え、改善の方向性を探ることが金融教育の新たな課題となると考えている。

<p>イノセント（純粹無垢） 小学校・低学年 1年～3年（調査対象2年生） お金に関する経験はまだ少ないが、純粹無垢な好奇心の強い時期。</p>	<p>ロマンティスト（理想主義） 小学校・中高学年 4年～6年（調査対象5年生） お金に関する認識は高まるが、欲を抑え、清らかにお金をとらえようとする時期。</p>	<p>リアリスト（現実主義） 中学校 1年～3年（調査対象2年生） 買い物行動や自立的な金銭管理も活発になり、将来に向けて現実的な考え方が増加する時期。</p>	
<p>道徳 1～2年</p>	<p>道徳 3～4年</p>	<p>道徳 5～6年</p>	
<p>学習指導要領における主な関連内容項目（例）</p> <p>○〔節度、節制〕物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。</p> <p>○〔善悪の判断、自律〕よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。</p>	<p>学習指導要領における主な関連内容項目（例）</p> <p>○〔節度、節制〕自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し節度のある生活をする。</p> <p>○〔善悪の判断、自律〕正しいと判断したことは自信をもって行う。</p>	<p>学習指導要領における主な関連内容項目（例）</p> <p>○〔節度、節制〕生活習慣の大切さを理解し、生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。</p> <p>○〔自律、自由と責任〕自律的に判断し、責任のある行動をする。</p>	<p>学習指導要領における主な関連内容項目（例）</p> <p>○〔節度、節制〕節度を守り、節制に心掛け、調和のある生活をする。</p> <p>○〔向上心〕自己の向上を図り、充実した生き方を追求する。</p> <p>○〔思いやり、感謝〕<u>思いやりの心で人に接し、逆に感謝し応え、人間愛の精神を深める。</u></p> <p>○〔遵法、公德心〕法やきまりの意義やよりよい在り方を考え、自他の権利を大切にし、義務を果たし、規律ある社会の実現に努める。</p>
<p>●お金に関する約束や決まりについて知り、それを大切にしようとする。</p> <p>●親の愛情を受け止め、買い物の手伝いなどをして健全なお金の感覚を育む。</p> <p>←◇自立的、創造的な生活のための内容・題材</p> <p>←◇日常生活に健全に生かすお金の感覚を育む題材 など</p>	<p>●お金に関する約束や決まりについて理解を深め、それを大切にしようとする。</p> <p>●親の無償の愛などを感じて、健全なお金の感覚を深める。</p> <p>←◇お金の節度ある生かし方を深められる題材</p> <p>←◇家庭・地域生活でのお金の健全な使い方を促す題材</p> <p>←◇お金そのものに対する興味や関心を高められる題材 など</p>	<p>●社会で働くこと、公共に奉仕することなどに関心を深め、可能なことは実践しようとする。</p> <p>←◇お金に関するトラブルなど生活（生徒）指導上の課題を生かした題材</p> <p>←◇お金に対する肯定感を保ち、お金を超えたものとの関わりを健全に考えられる題材 など</p>	<p>●お金に関する不正な行為を許さず、法の中で社会の秩序と安定があることに考えを深める。</p> <p>●富裕と貧困、社会保障の問題などに関心を深め、お金の有効な生かし方への考えをもつ。</p> <p>←◇お金に関する人間関係上の問題など生活（生徒）指導上の課題を織り交ぜた題材</p> <p>←◇お金の社会的役割に視野を広げ、公共の福祉などにも心を広げられる題材</p> <p>←◇お金を生かした見通しのある生活と、夢の実現やキャリア形成につながる題材 など</p>